

美しい音色と歌声で観客を魅了

吹奏楽きらめき事業第6回合同演奏会

音楽を通して夢と希望を

音楽を通して、子どもたちに夢と希望を持つことの大切さを伝える「吹奏楽きらめき事業」の合同演奏会が、5月21日に梁川中学校アリーナで行われ、約800人が来場しました。平成24年から始まった合同演奏会は、今回で6回目を迎えました。

演奏会に向けて

吹奏楽きらめき事業では、市内6つの中学校の吹奏楽

部員が、東京藝術大学の山本正治教授や、同大学の教員、学生から年間を通して定期的な演奏技術の指導を受けています。今回の演奏会の準備は、今年の12月から始まり、練習を開始。藝大生との合同練習などを経て、いよいよ集大成となる演奏会を迎えます。中学生たちは藝大生との交流を通じて、演奏技術だけでなく、チームワークの大切さを学び、大きな成長を遂げてきたようです。

音楽で会場が一つになる

演奏会では友情出演の3団体で幕を開けました。伊達小学校吹奏楽部、保原高校・梁川高校・聖光学院高校の合同バンド、梁川交響吹奏楽団が、それぞれに息の合った演奏を披露し、会場を盛り上げました。続いて、市内6つの中学校の吹奏楽部員で構成された「伊達ジュニアウインドオーケストラ」が美しい音色を響かせ、東京藝大ウインドオーケストラが圧巻の演奏を披露しました。

最後に、中学生と東京藝術大学が共演しました。過去にこの事業に参加した生徒たちや、市内の合唱団体も加わり、総勢約220人に及ぶ大オーケストラが登場。観客も加わり全員で「故郷」を合唱し、音楽を通じて会場が一つになりました。

1. 演奏会前日の合同練習。パートごとに分かれて熱のこもった指導を受ける / 2. 美しい音色と歌声で観客を魅了する東京藝大ウインドオーケストラ / 3. 透き通るような音色を奏でる / 4. 中学生、東京藝大、市内の合唱グループが共演。心を一つにして演奏を披露した

★VOICE



東京藝術大学音楽学部
山本 正治 教授

音楽のまち、伊達市とつながりを持ってたことをうれしく思っています。子どもたちはこれからも音楽ができることの素晴らしさ、心の豊かさを大切にしてください。いつか楽器をやめる時がきたとしても、音楽を聴き続けてください。どんな形であれ、音楽との関わりを持ち続けてほしいと思います。

